

立山町公共交通活性化協議会交通WG（第3回）の開催結果について

1 会議の概要

- (1) 日 時 令和7年10月7日（火） 13時50分～15時00分
- (2) 出席者 交通WG構成員 10人
- (3) 議 事 ① 立山町地域公共交通計画の策定に向けた議論の経過について
② 立山町地域公共交通計画（素案）について

2 主な意見

- (1) 立山町地域公共交通計画（素案）について

- ・鉄道事業者からは、定期利用者への取組の強化について意見があった。
- ・バス事業者からは、ドライバー不足への対応、校外学習等への公共交通の活用、目標設定等に関する意見があった。
- ・タクシー事業者からは、タクシーの稼働が少ない現状や需要を増やす取組に関する意見があった。
- ・行政からは、事業者ノウハウの活用や重点事業、立山町の取組の掲載方法について意見があった。

発言者	意見概要
鉄道事業者	・立山線の乗降者数を伸ばすには、定期外だけでなく、 <u>定期利用者に力を入れる</u> 必要がある。このほか、 <u>モビリティマネジメント</u> としての個別訪問などの取組も重要である。
バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・車に乗れなくなったときには、公共交通の乗り方が分からず、その結果、外出しなくなることから、<u>若い頃から公共交通を利用する施策</u>が必要である。運転手不足への対応としては、<u>ダウンサイジングや夜間における役割分担、利用者の拡大策、若い世代が運転手になるための支援策</u>も必要である。 ・公共交通で行ける校外学習等でも、スクールバスによる移動が多く、配車が組めない状況も出てきている。基本方針4の交通リテラシー教育の一環として、<u>学校の校外学習等でも公共交通をさらに活用</u>いただきたい。 ・町営バスの見直しに向けて現況把握や先進地視察を実施している。<u>タクシー事業者の協力</u>がなければ再編は叶わないため、協力をお願いしたい。町営バスの目標として「利用者数」と「収支」があるが、デマンド化により新たな経費が必要であり、<u>収支削減の達成には不安を感じている</u>。
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・計画は電車とバスを中心に作成されており、<u>タクシーが関与できるところがありません</u>。町内に<u>商業施設が少ないため、タクシーが稼働しにくい</u>。タクシーの役割は<u>電車やバスの補完</u>と考えている。 ・タクシーの利用を増やすには、ロケ地巡り等の<u>需要を増やす取組</u>に力を入れることが必要。少しでも町の中で動く人が増えるような取組があれば、事業者としての協力は可能である。
介護タクシー事業者	・我々にできることは積極的に協力したい。地域包括ケアシステムの中で、もう少し介護タクシーを町で取りあげるなど、 <u>要介護者の移動支援にも力を入れてほしい</u> 。公共交通を利用できなくなることで外出をあきらめ、それが介護度の上昇や健康寿命の低下に直結している。

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通は既存のタクシーのように運行されるため、地理に詳しいタクシー事業者のノウハウが活用できる。重点事業が何を指すのか住民に伝わりにくいのではないかな。 ・事例の掲載がたくさんある中で、少し立山町の取組が見えにくく感じるなので、この部分を改善してはどうか。町民に伝わった方がより親しんでいただける。また、駅周辺まちづくりの面では、「みらいふ」を核に様々な取組やイベントを実施していることを踏まえ、写真を入れるとこの部分が伝わりやすくなるのではないかな。
----	---